

3 自分の命・地域を守るために行動できる

小学校 【5年生 社会】

自分の命・地域を守る

自然災害から命を守るためには、「公助」・「自助」とともに「共助」が重要であることについて考える。

◇本時の目標 防災福祉コミュニティについて調べることを通して、自然災害の被害を減らすには一人一人の協力が必要であることや「共助」が重要であることについて考えることができる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準
1 本時の学習課題をつかむ。 ○ 前時までの学習を振り返る。 ○ 資料の読み取りをする。	◇防災、減災のために、国・県・町が行っている事業や対策を想起させる。 ◇大規模な災害が発生した場合、公助が十分に行われないこともあることに気付かせる。	
自然災害から命を守るために、わたしたちには何ができるのだろう。		
3 学習課題に対する自分の考えを書く。 4 資料から分かることについて話し合う。 ○ 阪神・淡路大震災の際に問題になった「公助の限界」について話し合う。 ○ 教科書の写真や「清原さんの話」から防災コミュニティでは、自然災害に備えてどのような活動がおこなわれているのかを読み取る。 ○ なぜ、防災コミュニティのような活動が必要なのかを話し合う。 5 学習を振り返り、まとめる。 ○ 自分の考えをまとめる。	◇「72 時間の壁」について触れ、人命救助は一刻を争うものであることに気付かせる。 ◇校区内の自主防災会の活動を紹介する。 ◇自然災害から命を守るためにできることは何かを考えさせる。	・自然災害から命を守るためには、「公助」にたよるだけでなく、「自助」とともに「共助」が重要であることについて考えている。 [関心・意欲・態度] (発言・ノート)
自然災害から命を守るために、私たち一人一人が防災意識を高めておくことが大切だ。そのために、私たちは、校区内の自主防災会に参加したり、防災マップの見直しなどを地域の人たちと行ったりすることができる。日頃から地域の人と顔見知りになってつながりを大事にしておくことが重要だ。		
○次時の学習を確認する。	◇実際の避難所で起こりうる状態をイメージしておくことで、自分たちの役割について考えられるよう話をする。	

つながり・発展

【特別活動】

- 「わたしの避難手帳」を作成し、家族と話し合う。
- 防災キャンプで避難所体験をする。

ゴールイメージ

わたしたちは、自然災害から自分たちの命や暮らしを守るために、どんな備えをしておけばよいでしょう。
 また、自然災害が起きたとき（起きそうなとき）自分の命を守るためにどんな行動をとればよいでしょう。



ハザードマップで自然災害のときに危険な場所を確かめたり、家族と避難場所や避難経路を確認したり、防災グッズを準備したりします。また、地域の防災訓練や避難訓練に参加して、地域との人とつながるようにします。

自然災害が起きそうなときには、国が出す防災情報や町が出す避難情報を収集して、まわりの状況に注意して、早めに避難します。

わたしの避難手帳

～大切な命を守るために～



5年 組 番 名前 ()

確認しよう!



○災害に備えて地域で行われている活動は？

○家族構成は？

○ペットは？ いる ・ いない

○避難するときは？

避難場所

避難方法

かかる時間

○事前に準備しておく物は？



○いつ、どのような備えをしたらよいか考えてみよう！

	気象庁から出される 情報	町から出される 情報	自分の備え・行動
台風が発生	○台風に関する広島 県気象情報		
雨が強まって、 近隣で床下浸 水や道路の冠 水が発生した	○大雨注意報・洪水注 意報発表 ○台風に関する今後 の見通し	○避難準備・高齢者 等避難開始発令	
湧き水、地下水 が濁り始め、川 の水が急に増え た	○大雨警報発表		
近隣で床下浸水 や道路の冠水被 害が拡大した	○記録的短時間大雨 情報発表	○避難勧告を発令	
近隣で床上浸水が 発生した	○大雨特別警報 (緊急速報メール)	○避難指示を発令	
土砂災害発生の大 きな危険が迫った			

